

エリアワンセグ放送によるメディア教育と地域活性化の可能性

経営学部助教 舩井 道晴

1. はじめに ～いしのまきワンセグの目的～

石巻専修大学は、平成24年7月にエリアワンセグ放送の免許を取得した。平成24年度は、試行的ではあるが石巻地域に関する番組制作（観光・産業・復興など）を予定としている。学内には学生を主体とした「いしのまきワンセグ」が発足し、10月から地元ラジオ局の「ラジオ石巻」との共同で番組制作し、定期的な放送を開始した。

いしのまきワンセグはその目標として、以下の2つを掲げている。

1. メディアコンテンツ制作の教育を行い、石巻圏域の活性化のための、学生の視点による情報発信方法・体制を確立させる。
2. 「いしのまきワンセグ」のスタジオは、非常時でも大学の自家発電機により電力の確保が可能である。緊急時において、情報の発信拠点として活動する体制を構築する。

本活動を通じて放送の実績を積み重ねていくことで、地域間交流において信頼関係をより一層深めていくことが可能である。その上で、東日本大震災で断ち切られた石巻地域のコミュニティや復興の様子を「いしのまきワンセグ」の活動を通じて配信、蓄積していく。運用が安定していれば、災害時や緊急時には確実な情報発信拠点として認識される。このような信頼性をもとに「石巻圏域緊急情報システム」を地域の団体とともに構築することが可能である。

本稿においては、これまでの「いしのまきワンセグ」の活動を具体的に紹介するとともに、学生にどのような教

育効果を与えているか紹介する。

2. 「いしのまきワンセグ」のスタジオ

石巻専修大学学生会館2階に、「いしのまきワンセグ」スタジオを設営した。ここには撮影・放送を行う機材がそろっており、生放送、収録放送に対応している。また、PCと学内無線LANが導入されており、インターネットを用いた放送などにも対応している。

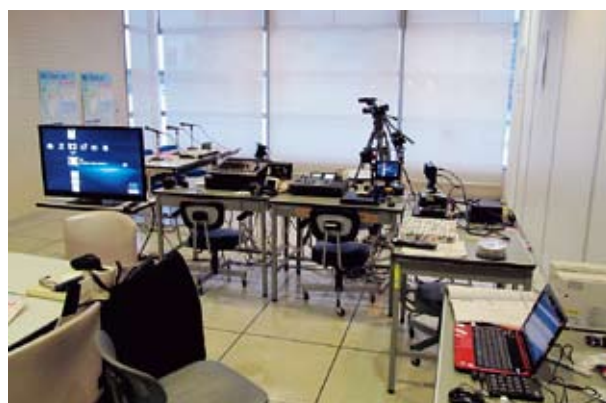


図1 いしのまきワンセグスタジオ風景

3. 「いしのまきワンセグ」の活動

3.1. 開局セレモニー

「いしのまきワンセグ」としての初めての活動は、開局セレモニーである。開局セレモニーには経営学部の5名の学生がボランティアスタッフとして協力してくれた。だが、彼らは映像機器の操作、番組制作に関して全くの素人であっただけでなく、イベント数日前になりようやく設営・機材の調達が整ったため、十分な準備を整えることはできなかった。そこで専修大学・福富ゼミの「かわ

さきワンセグ」に所属する学生の主導のもと、イベントの様を生放送することになった。

3.2. オープンキャンパス

開局セレモニーの後、2つ目のイベントは平成24年9月30日に行われるオープンキャンパスということが決定された。この頃より、企業などで導入が進んでいるグループウェア「サイボウズ」による情報の共有が始まった。これにより、学生たちの間でイベント当日の台本を事前にチェックするなど、作業の効率化が実現した。サイボウズのようなwebオフィスツールの使い方を習得しておくことは、今後彼ら自身の仕事などで効果的であると考えられる。図2はサイボウズ上で実際にやりとりされたオープンキャンパス参加の高校生へのインタビュー原稿である。

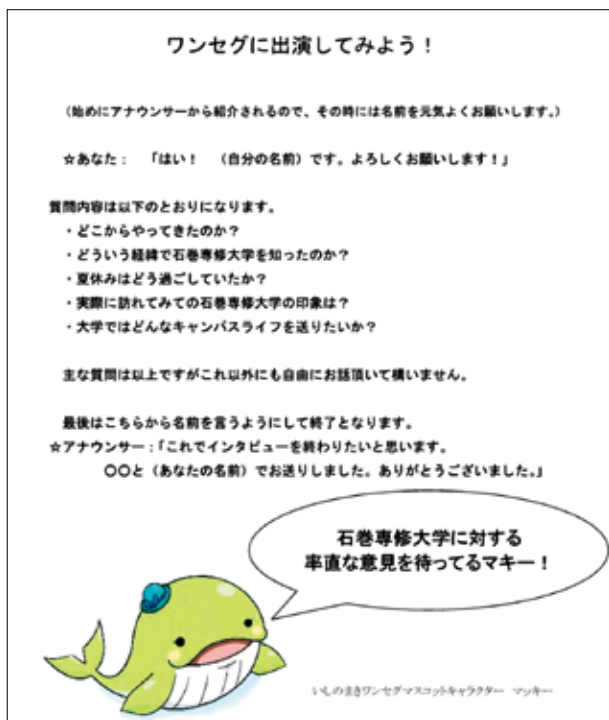


図2 オープンキャンパス企画・高校生へのインタビュー原稿

また、図3は同じく事前にやりとりされたオープンキャンパス当日の台本(オープンキャンパス構成案)である。この台本の書き方は開局セレモニー時の「かわさきワンセグ」の手法を彼ら自身の手でアレンジしたものであり、活動を通じて彼らが「水を飲むように」知識や技術を獲得していることがわかる。

第5回オープンキャンパス構成案(案)

時刻	学内	スタジオ
9:00	→	石川 スタジオ解説
9:50	→	学生ワンセグメンバー全員集合
10:00	打ち合わせ準備	
11:00-11:40	学食前 ワンセグPRロボット デモショー開始 カメラ・音響	準備・PRデモショー アナウンサー・石川 トータ線手・小松 カメ・音響 スタジオ・石川 スピーカー・石川 音・通訳
11:40-11:50	→	PRトーク アナウンサー・石川 トータ線手・石川 カメ・音響 AD・小松 スピーカー・石川 音・通訳
11:50-12:00	→	右鳳祭実行委員長スタジオ入り その後、打ち合わせ
12:00-12:20	スタジオ前で呼び込み 小松・石川	右鳳祭PRデモショー アナウンサー・石川 トータ線手・小松 カメ・音響 スタジオ・石川 スピーカー・石川 音・通訳
12:20-12:30	コンピュータ室2A ワンセグ放送実 伝(呼び込み) 石川	4202 右鳳祭PR 打ち合わせ等 アナウンサー・石川 トータ線手・小松 カメ・音響 スタジオ・石川 スピーカー・石川 音・通訳
12:30-12:45	→	右鳳祭宣伝 アナウンサー・石川 トータ線手・小松 カメ・音響 AD・小松 スピーカー・石川 音・通訳
12:46-13:00	→	準備・PRデモショー アナウンサー・石川 トータ線手・小松 カメ・音響 AD・小松 スピーカー・石川 音・通訳
13:00-15:00	→	高校生へのインタビュー(生放送) 1人または2人1組で 来ない場合は録音機材等の放送 アナウンサー・石川 トータ線手・小松 カメ・音響 AD・小松 スピーカー・石川 音・通訳

図3 オープンキャンパス構成案



図4 石鳳祭イベント「next!」

図3のタイムテーブルの12:30~12:45に「石鳳祭宣伝」とある。これが「いしのまきワンセグ」メンバーによる初めての「自分たちの手による番組」である。オープンキャンパスにおいて、平成24年10月6日、7日に行われる石鳳祭の実行委員長をスタジオに呼んで宣伝を行ってもらうという内容である。そのために事前に打ち合わせ、カメラリハーサルを入念に行った。

宣伝番組に続けて、オープンキャンパス参加者へのインタビューを予定していたが、当日、参加者数が少な

震災に関する研究活動

かったことも影響して実際のインタビューには至らなかった。だが、このイベントを通じてメンバーが得たものは大きい。それは第1に、「放送はどのような手順で行うか」を準備段階から理解し、自らの手で構築できたことである。第2に、カメラ、スイッチャー、ミキサーといった、放送にとって最も重要となる機器の役割と構造、基本的な操作方法を実際に使うことで学べたことである。

3.3. 石鳳祭

オープンキャンパスで基本的な事柄の習得を果たした「いしのまきワンセグ」メンバーにとって、さらなるスキルアップの機会となったのが石鳳祭である。平成24年10月6日に、再び「かわさきワンセグ」とラジオ石巻の協力を得て、「いしのまきワンセグ 復興トーク&ライブnext!」と銘打った番組が、ワンセグ2局、FM1局の3局同時かつインターネット放送「USTREAM」によって生放送された。これは当初想定されていた「いしのまきワンセグ」「ラジオ石巻」「かわさきワンセグ」「かわさきFM」の同時中継に加え、インターネット上への「5元中継」となる、独創的な試みである。

当日「いしのまきワンセグ」は石鳳祭レポートを2本立てで行った。(1)石鳳祭実行委員会、合唱部、茶道部、経営学部山崎ゼミナールなどの「各団体の活動紹介」と(2)同時開催しているホームカミングデーに参加している「OBへのインタビュー」である。

3.4. キャンパスライブ

平成24年10月26日12時30分より、「いしのまきワンセグ」メンバーによる生放送番組である「キャンパスライブ」がスタートした。これは、「いしのまきワンセグ」とラジオ石巻による同時中継となっている。また放送をアナウンスしていないが、「かわさきワンセグ」でも視聴可能である。毎週の放送はすべてメンバーによる企画・放送となる。当然、これまでの活動より準備時間の制約があるが、図5に示すような台本を毎回用意し、放送週の水曜日には最終打ち合わせを行うことで、毎週の放送

を途切れさせることなく続けている。オープニングソングやBGMもメンバーの自作の楽曲である。

12:44:00	四益	いしのまきワンセグキャンパスLIVEは石巻専修大学学生会館2階のワンセグスタジオからお送りしています。 ここからはMC及川に替わって四益が進行していきたいと思っています。 よろしくお願いします。 いしのまきワンセグミュージックライブ それではいしのまきワンセグ キャンパスライブ後半ではクリスマスにまつわる楽曲の魅力を、ミュージックナビゲーターの遠藤さん、小松さんと一緒に紹介していきたいと思っています。よろしくお願いします
	遠藤 小松	よろしくお願いします
	四益	実はお二人には、いしのまきワンセグで音響やBGMを担当してもらっているんですよ。 オープニングの曲も遠藤さんが作った曲なんですよ
	遠藤	「はい「walk the street」っていう曲なんですよ。
	四益	「へえ、すごく聞いてて心地よい曲ですね」
	遠藤	「前半の後ろの方で流れていた曲は小松さんが作ったものなんですよ。小松さん、この曲にはなにか由来があってあったりするんですか」
	小松	それは……で……なんですよ
12:46:00	四益	「さて、あらためまして、後半はクリスマスにまつわる楽曲を紹介していくコーナーです。一番最初に流れる曲は、クレイジーケンバンドで、「クリスマスなんて大嫌いなんちゃって」です。私はあまり詳しくないのですが、クレイジーケンバンドってどんなバンドなんですか？」
	遠藤	「クレイジーケンバンドは、SEIYUのCMの楽曲やタイガー&ドラゴンという楽曲が有名だと思います。」
	四益	「へえ、すごく身近なバンドなんですね。せいゆーのCMって聞くのと分かります。」
	遠藤	「今回紹介する「クリスマスなんて大嫌い!!」なんちゃって♥(ハートマーク)」は2002年に発表された楽曲で、タイトルからは一見、楽曲の内容が想像しがたいのですが、楽曲自体は真つなクリスマスソングとなっています。」
	小松	「たしかに想像しがたいがっしょくですね。さっそくどんな曲なのか聞いていただきます」

図5 キャンパスライブ(第9回)台本の一部

この台本で特筆すべきは、その緻密さである。「誰が何時何分何秒に、どのような内容を話すのか」が示されている。内容も当初はメンバー紹介や大学内の事柄に終始していたのだが、次第にオリジナリティが増してきている。回を重ねるにつれ、外部の団体からゲストを招いての番組構成、NPOの協力を得て「USTREAM」による配信を加えた放送、すなわち自分たちの手で放送の導線を増やすこともできるようになった。

生放送の番組を継続していく中で彼らが得たものは、技術的なことはもちろんのこと、「カメラ、スイッチャー、パーソナリティ、ミキサー、アシスタント、その場にいるすべての者が呼吸を合わせること」の重要性である。「スイッチャーはどの映像がほしいか」をカメラが判断し、それをパーソナリティが受け取りトークにつな

げ、そしてスイッチャーは適切な指示を継続して行うことができるのである。この意思疎通の重要性は何も番組制作のみにあてはまるものではなく、あらゆる事柄に応用が可能であろう。

4. まとめと今後の展開

本稿では「いしのまきワンセグ」の活動およびそれを通じた学生への教育効果について述べた。放送に関する技術、知識だけでなく、出演交渉など基本的な社会ルールを身に付けるなど、学生たちは着実にレベルアップしている。だが、現在これらはほぼ学内の環境で完結している。そろそろ次のステップに移る時期であろう。

「いしのまきワンセグ」の活動目的は、「地域活性化のための学生視点での情報提供」である。ラジオ石巻との連携体制が構築できたことは、この「地域密着型」のコンテンツを作っていく上で非常に大きな成果である。今年度の活動を踏まえて、震災から約2年が経つ今、人々が何を求めているかを鋭敏に感じ取り、それをどのように発信していけばよいかを考えていきたい。

そして、現在は経営学部の学生だけにとどまるが、全学的な取り組みとしてこの「いしのまきワンセグ」を発展させていくことで、地域社会、経済、メディアを発展させる人材を輩出していくことが可能になると考えられる。

1 大学の動き
平成23年4月

2 震災に関する
研究活動

3 大学施設の地域
催事への提供

4 震災の影響に関す
る全学調査結果

5 防災・減災のための
備蓄品調達状況

6 震災に関する
取り組み
インタビューによる紹介

7 震災2年目における
委員会等の活動と
本学の対応

8 阪神・東海に学ぶ

9 学内に結成された
ボランティアサークルの活動